

昭和37年3月1日(毎月1回1日発行)

発行所 新潟県公民館連絡協議会
〔新潟市一番堀通町・県教育庁社会教育課内〕
電話 (新潟) 34111(638)
(振替 (新潟) 4091)
発行人 安沢 純 正
(定価 1部 8円)

3月号 (109号)

新潟県 公民館月報

昭和37年事業補助

本会は50万円にとどまる 県主脳部説得のむずかしさ

新潟新報による二十七年度一般会計の当初予算原案が、さき二月十二日決定した。これによろしうに総額は、三百九十二億余円、このうち教育関係予算は百四十三億余円で、県主脳部高の三七パーセントで約三分の一を占めてはいるが、新年度からの高校増設に対する建築費、人件費等に金を割かれていたため、社会教育関係予算では若干の伸びが認められる程度で期待されたほどの増額はなかった。

社会教育関係団体 円、県連合青年団では二十万増の六十万円となっている。一方、本会独自の計画として「青少年教育の指導者拡充研修」のための予算九十万を要求していたが、県では「青少年健全育成事業予算」として農業改良課に三百二十万、社教課に五百二十万児童課に六百万円をそれぞれ計上し、直接公民館関係への予算は計上されなかった。

別稿にも載せたとおり、本会ではかねてより社教関係団体とタイアップしながら、青少年の指導拡充を含め、地域の社会教育は、公民館の充実なしでは多くを望めないのでとの信念から県主脳部に対し、特に公民館の抜本的前進に要する予算の増額について強力な運動をすすめていたものであるが、この結果についてはいささかの失望と、主脳部説得のむずかしさを痛感しているところである。

予算原案が、さき二月十二日決定した。これによろしうに総額は、三百九十二億余円、このうち教育関係予算は百四十三億余円で、県主脳部高の三七パーセントで約三分の一を占めてはいるが、新年度からの高校増設に対する建築費、人件費等に金を割かれていたため、社会教育関係予算では若干の伸びが認められる程度で期待されたほどの増額はなかった。

社会教育関係団体 円、県連合青年団では二十万増の六十万円となっている。一方、本会独自の計画として「青少年教育の指導者拡充研修」のための予算九十万を要求していたが、県では「青少年健全育成事業予算」として農業改良課に三百二十万、社教課に五百二十万児童課に六百万円をそれぞれ計上し、直接公民館関係への予算は計上されなかった。

別稿にも載せたとおり、本会ではかねてより社教関係団体とタイアップしながら、青少年の指導拡充を含め、地域の社会教育は、公民館の充実なしでは多くを望めないのでとの信念から県主脳部に対し、特に公民館の抜本的前進に要する予算の増額について強力な運動をすすめていたものであるが、この結果についてはいささかの失望と、主脳部説得のむずかしさを痛感しているところである。

別稿にも載せたとおり、本会ではかねてより社教関係団体とタイアップしながら、青少年の指導拡充を含め、地域の社会教育は、公民館の充実なしでは多くを望めないのでとの信念から県主脳部に対し、特に公民館の抜本的前進に要する予算の増額について強力な運動をすすめていたものであるが、この結果についてはいささかの失望と、主脳部説得のむずかしさを痛感しているところである。



【写真は鈴木副知事と懇談する左より

吉原・庵原・村田(鈴木) 安沢の各氏】

さるこの日新潟市柳水閣に集まった吉原PTA連会長、村田県婦連会日、社長、安沢本会々長は飯酒漁業社教育課長補佐による第一次査定の結果の説明を受け、十二時四十分から二十分間にわたり鈴木副知事と対面し、安沢本会々長が代表資料を添え陳情した。三十七年度本会の補助要請額は経常性の一般事業補助として二〇〇万円、特別事業補助として九〇〇万円である。このうち一般事業のなかには、モデル公民館、委嘱事業として二館十萬円、県内公民館中の二〇パーセントに対して補助を要するものが含まれ、特別事業とは「青少年教育の指導者拡充研修」として公民館職員および同連合審議員等の研

副知事、総務部長に陳情 緊急社教関係団体会議開く

修計画もまわっている。会長の熱意に部長もたじたじ副知事に陳情のあと、午後一時のことであった。

最後に新報と懇談 社教関係団体補助増額を要請

二月七日午後一時十五分より知事室において出京から帰庁した塚田知事とらえ、社教関係団体補助第一次査定に対する復活要求の各団体代表五名が陳情した。社教関係団体を代表し、庵原本会幹事理事が本紙題字押室の礼を述べたあと要成を明説したが、

目次

37年度県社教関係当初予算	P. 2 P. 3
兼務青年学級主事の限界	P. 4
広島県福島町東公民館紹介	P. 5
独立館建設と職員研修の急務	P. 6
青少年教育振興協議会資料	P. 7

3月の歴史

モリス

一八三四年三月二十四日生れる。イギリスの文学者で工業美術家。美をまもるための民衆教育を目標に社会主義をとった。著書に「ユートピア」等の一

適当な秩序のある社会では、労働する意志のあるすべての人々には、次のことが確保されねばならぬ。第一、恥かしくない適切な仕事。第二、健康として美しい住宅。第三、心身の休息のための十分な余暇……みなさんに考えていただきたいのだが、一方においてこの要求をみたすことが可能であると同様に、他方現在の全権制度の下ではこれらを満たすことは不可能なのだ。この全権制度はわれわれがこの要求を満足させようとするあらゆるまじむな努力を禁止する。それで社会革命の開始というところが、民衆の芸術すなわち人生の快楽の再建の基礎となるべきをえなくてはならない。(芸術と社会主義)より

三十七年度当初予算編成の作業は十一月上旬から始めて二月十日の知事定で最終的な結論の出るまで約百日間の日数を要した。そして二月二十八日召集の県議会に提案され目下審議中であるが県予算の総額は三百九十二億二千四百万円であり、そのうち教育委員会所管の予算額は百四十二億二千八百四十四万四千円であつて総予算額の三十六・五%を占めておる。教育委員会所管の予算額のうち人件費が九〇・三%であり投資的経費が六・二%、消費的経費が三・五%である。

- 県教育委員会が三十七年度当初予算の編成にあつてはかかた重
- 一、高等学校急増対策の推進と差
 - 二、教育の機会均等と条件の整備
 - 三、総合社会教育の推進
 - 四、青少年の体力向上と国民体育大会準備の促進
 - 五、父兄負担の軽減
- 以上の五項目であるが社会教育課としては三の総合社会教育の推進を軸として更に次の事項についての予算要求を計画した。

- 一、総合社会教育の研究指定地区設置
- 二、婦人団体指導と婦人学級の委嘱
- 三、訪問系公設講座と指定地区の設置
- 四、低年令青年層父母会議とPTA指導者研修会
- 五、社会教育行政体制の確立
- 六、市町村社会教育委員会研修会の開催
- 七、市町村社会教育主事研修会の開催

- 八、公民館職員講習会の開催
- 九、公民館の整備育成
- 十、視聴覚教材教具の整備
- 十一、青少年教育の振興
- 十二、青少年団体指導と青年学級の指定運営

37年度社教関係予算を上程 前年度より四百二十万円増す

飯 酒 盃 清 雄

育計画の樹立により特に青少年教育で開催するが三十七年度間に第二回目の講習を行う予定である。はかる研究指定地区を五カ所に絞り研究期間は、二九年として一カ所十万円の研究費を交付し、もうとするものである。

へき地映写機普及費(一〇〇万円)は三十四年度より三十六年度までの三カ年間で購入し、その助成を行つたがテレビは今後更に文部省の年間十数台の補助金交付が行われる見通しであるのでテレビ以上へき地で切望されている映写機の購入についての助成を三十七年度より行う予定である。

更に文化財保存育成指導費(二六六万七千円)、天然記念物と名保護(三万七千円)、重要文化財修理(三万五千円)、民俗(三万六千円)の増額となるので三十七年度末に百十万円の経費で購入するブック・モビルにより一層の活躍が期待されるものと考へ

以上で社会教育課関係の三十七年度当初予算提案予定額の概略を説明したのであるがこれらの中で、総合社会教育研究指定地区設置、勤労青少年のつどい、新課計上と青年学級及び婦人学級の補助金増額については四月一日より施行される青少年保護育成条例の関係等も配慮され知事査定の際最終段階で知事の特別な指示によって計上されることになつておることを附記する。

青少年のつどい(一九万円)が計上されるがこれは未組織青少年、特に都市の中小企業の勤労者にしむ低年令層の青少年を対象にしむ機会を与へ学習意欲を起させるため年間、県内十ヶ所場で一冊ずつの婦人教育振興費のうち婦人国内学級振興協議会負担金五千円である。文化財保存費は、県の文化財費を最重点とし、二・三・ハは、六・年度の社会教育の振興という記事を組んでいたものだが、二月県会での三十七年度県社教関係予算の提案予定額について県社教課長補佐から書いていたいたので組みかえた。

この結果当初予算の総額は三十三億八千六百三十三万三千円、前年度より九百六十六万三千円と比較すると四百二十万円の増額であるが細部の比較については別掲の一覧表の通りである。以下増額になるものについて述べる。

青少年のつどい(一九万円)が計上されるがこれは未組織青少年、特に都市の中小企業の勤労者にしむ低年令層の青少年を対象にしむ機会を与へ学習意欲を起させるため年間、県内十ヶ所場で一冊ずつの婦人教育振興費のうち婦人国内学級振興協議会負担金五千円である。文化財保存費は、県の文化財費を最重点とし、二・三・ハは、六・年度の社会教育の振興という記事を組んでいたものだが、二月県会での三十七年度県社教関係予算の提案予定額について県社教課長補佐から書いていたいたので組みかえた。

青少年のつどい(一九万円)が計上されるがこれは未組織青少年、特に都市の中小企業の勤労者にしむ低年令層の青少年を対象にしむ機会を与へ学習意欲を起させるため年間、県内十ヶ所場で一冊ずつの婦人教育振興費のうち婦人国内学級振興協議会負担金五千円である。文化財保存費は、県の文化財費を最重点とし、二・三・ハは、六・年度の社会教育の振興という記事を組んでいたものだが、二月県会での三十七年度県社教関係予算の提案予定額について県社教課長補佐から書いていたいたので組みかえた。

青少年のつどい(一九万円)が計上されるがこれは未組織青少年、特に都市の中小企業の勤労者にしむ低年令層の青少年を対象にしむ機会を与へ学習意欲を起させるため年間、県内十ヶ所場で一冊ずつの婦人教育振興費のうち婦人国内学級振興協議会負担金五千円である。文化財保存費は、県の文化財費を最重点とし、二・三・ハは、六・年度の社会教育の振興という記事を組んでいたものだが、二月県会での三十七年度県社教関係予算の提案予定額について県社教課長補佐から書いていたいたので組みかえた。

公民館 調査集計表を見て

青木 英治

一月に掲載された「公民館調査集計表」を見て三、四気味の感想と所見を述べて見よう。

公民館数二百十は調査館数か実数かはこの表ではわからない。それはともかくとして「職員定数」の項で、公民館条例で定めている館が四十五とほ二〇%余りに過ぎないことが見られて意外に思った。条例に規定がないのが二十一で一〇%、この一〇%にあたる館は条例すら定めていないのではないかと。

教育委員会事務職員に含まれているものが八十館で四〇%近い。これは公民館が教育委員会の所管であればそうあるのが当然だ。市町村の定数条例上におけるのが三七館一八%弱である。これは市町村職員と公民館職員がフルに異動される恐れがあつて公民館運営には妥当でない。その他が四十九館で二二%弱、これは臨時雇用のものかどうかは知れないが、これは職員の研究向上を望む方が無理かもしれない。

「市町村の実施給予表」の項では四等級六(二)五等級(五)三等市(三七)六等級(三)の順であるが、海

法規と条例によって職員資質の向上を望む

公民館数二百十は調査館数か実数かはこの表ではわからない。それはともかくとして「職員定数」の項で、公民館条例で定めている館が四十五とほ二〇%余りに過ぎないことが見られて意外に思った。条例に規定がないのが二十一で一〇%、この一〇%にあたる館は条例すら定めていないのではないかと。

教育委員会事務職員に含まれているものが八十館で四〇%近い。これは公民館が教育委員会の所管であればそうあるのが当然だ。市町村の定数条例上におけるのが三七館一八%弱である。これは市町村職員と公民館職員がフルに異動される恐れがあつて公民館運営には妥当でない。その他が四十九館で二二%弱、これは臨時雇用のものかどうかは知れないが、これは職員の研究向上を望む方が無理かもしれない。

「市町村の実施給予表」の項では四等級六(二)五等級(五)三等市(三七)六等級(三)の順であるが、海

県社会教育課関係

昭和37年度当予算提案予定一覧

(単位 千円)

項目	事業名	37年度当初案	36年度当初案	項目	事業名	37年度当初案	36年度当初案
(項)	社会教育費	19,612	15,985	2.	県文化講演会費	59	59
(目)	社会教育振興費	12,725	9,374	3.	演劇指導者講習会費	59	56
	・市町村行政指導費	886	258		・施設育成費	448	257
1.	市町村社会教育委員研修会費	104	94	1.	公民館職員講習会費	300	127
2.	市町村社会教育主事研修会費	72	64	2.	公民館運営研究会費	62	44
3.	市町村社会教育行政指導調査費	—	100	3.	公民館育成費	86	86
4.	総合社会教育研究指定地区設置費	710	—		・社会教育助成費	4,055	2,250
	・へき地社会教育振興費	1,294	1,281	1.	学級施設助成費	2,250	1,200
1.	へき地社会教育研究協議会費	94	81	2.	社会教育団体活動助成費	1,805	1,050
2.	へき地映写機普及費	1,200	1,200	(目)	文化財保存費	1,527	1,404
	・社会教育委員費	453	420		・文化財保護条例10周年行事	150	100
1.	社会教育委員会会議費	453	420	1.	文化財保護条例施行10周年記念文化財図録発行費	150	100
	・社会教育主事指導研修費	922	853		・文化財保存調査	333	391
1.	出張所管内指導費	563	525	1.	中世古文書古記録調査費	250	199
2.	社会教育主事研修費	359	328	2.	県指定古城跡実測調査費	83	153
	・青少年教育振興費	2,867	2,486	3.	県文化財記録映画製作費	—	39
1.	青少年団体指導者講習会費	253	182		・文化財保存育成費	796	676
2.	青少年団体活動実績発表会費	146	138	1.	文化財保存育成費	796	676
3.	青少年団体育成指導費	60	60		・文化財調査審議委員会会議費	138	127
4.	青年学級運営研究協議会費	90	85	1.	文化財調査審議委員会会議費	138	127
5.	青年学級生大会費	69	66		・銃砲刀剣類登録事務費	110	110
6.	青年学級育成指導費	107	102	1.	銃砲刀剣類登録事務費	110	110
7.	県青年大会費	300	380	(目)	視聴覚教育費	4,230	4,107
8.	全国青年大会費	417	286		・視聴覚ライブラリー運営費	3,875	3,784
9.	青年国内研修費	800	800	1.	視聴覚ライブラリー運営費	3,515	3,420
10.	青少年教育振興協議会	435	387	2.	録音教材センター運営費	360	364
11.	勤労青少年のつどい	190	—		・視聴覚教育振興費	355	323
	・婦人教育振興費	440	380	1.	第9回視聴覚教育振興大会費	64	57
1.	婦人団体指導者研修会費	113	99	2.	映写技術者養成講習会費	77	73
2.	婦人団体育成指導費	75	65	3.	登録映写機機能検定会費	—	60
3.	婦人学級運営研究協議会費	123	106	4.	新作教育映画研究協議会費	—	20
4.	婦人学級育成指導費	129	110	5.	テレビ教育研究会費	50	47
	・成人教育振興費	591	623	6.	視聴覚教材利用状況調査費	164	66
1.	P T A 指導者研修会費	92	83	(目)	青年の家運営費	1,130	1,100
2.	P T A 研究大会費	—	57	1.	青年の家運営費	1,130	1,100
3.	低年齢青年層父母会費	100	100	(項)	図書館費	4,251	3,678
4.	高等学校開放講座開設費	91	70	(目)	図書館協議会費	117	93
5.	社会教育講師団派遣費	308	313	1.	図書館協議会委員費	117	93
	・訪問集会有成費	501	401	(目)	館費	4,134	3,585
1.	訪問集会設置促進協議会費	162	126	1.	県立図書館管理運営費	3,899	3,397
2.	訪問集会世話役研究協議会費	106	84	2.	青少年巡回文庫運営費	235	188
3.	訪問集会研究指定地区設置費	233	191		合 計	23,863	19,663
	・文化振興費	268	165				
1.	第17回県美術展費	150	50				

町村職員と公民館職員との給与表の比較が呈されると今後の職員の給与の改善も復立つと思つて。

「市町村長部局の職員と超過勤務の手当が違つ」の項と同様興味ある欄である。この項は「再調査のうえ後日発表」の注がつけられているが早くその真相を発表してほしいものだ。「市町村長部局への異動希望者」の項で「わからない」「不明」のあるのはどうしたことが。「いないようだ」「いるようだ」のようにはっきりしない調査には不満を持たざるを得ない。「公民館条例」「教育委員会条例」の項で、名称職務が条例に記載されていないかたり不明であったりする館が非常に多い。これでは職務内容をよく理解しての活動が望まれない。こうした館には条例がないのかも知れない。なげれば早急になつていただきたい。

「公民館職員の採用方法」の項では、事務局からの人事異動が最も多いのは考えも。循環人事異動も同様だ。

「市町村長部局の超過手当」の項では、公民館職員は休日と夜間に活動の機会が多いから特別超過手当を出すのが当然である。市町村職員のみでは気の毒、だがそれよりも不利の場合があるからこの点は各当事者において速かに是正しなければならぬ。

これを要するに公民館の運営は法理によるは当然のこと市町村当局において地域に即した条例を制定し、職員の待遇を改善し、その運営の向上に努めたい社会を作らなければならない。

(六日田公民館運営審議委員)

このころ農村においては、青少年の教育の面でも、組織活動の面でも、特に問題が多かった。これは、従来から問題とされてきたことが依然解決されていないところもあるが、特に農村が、産業構造改革の余波を受けて「火の消えたような農村」とか「行事をやめるなら農業期」といふような言葉で代表されているように、村に若い者がいなくなったことが最大の原因になっている。

たまたま今夏、並木正吉君「農村は変わる」をよみ、氏が若い世代の動きをあらゆる角度から分析したことにインスピレーションを、学区内の青少年の実態を調べてみた。そして一つには、身近かな若者の動きをつかみ、一つには、不振をたどる青年学級の活動をもひて手がかりをえたいと考えた。

まず、中学校卒業生名簿により、いまのことだけをのべておく。昭和三十一年度より三十五年度に至る五年間の学区内全員の個票をつくり、卒業年次、部落、家庭出身別、卒業時の進学・就学状況を調査した。第二次として、年次別、部落別に調査者を依頼し、主として卒業後の転職の状況を探った。次表がその結果である。

第三次は現在々家する者を生活類型別に、その生活や意識について、決してやらねばならないこと、自分の家や田畑に働かざるがゆつかった具体的な経験をふまえて「考える」として結ばれるような学習をなすはならないとするならば、私の預かる青年学級も、当然定着・抱育、レクリエーション、コース等をとり入れて仲間づくり(コース別、全園)の基礎固めをおこなって十二月をおわった。一月からは、月(農業コース、通勤者コース)



調査結果をくわしく述べると、男子中卒新糊農業就業者は、全国的推移(並木氏のもの)本郷の推移(藤井止弘氏のもの)と全くおなじ傾向を示しており、当地区もまた「火の消えたような農村」と

兼務青年学級主事の限界

調査によるコース別学級を作ってみて

猪股武雄

育は、一人一人の願いや悩みを解決してやらねばならないこと、自分の家や田畑に働かざるがゆつかった具体的な経験をふまえて「考える」として結ばれるような学習をなすはならないとするならば、私の預かる青年学級も、当然定着・抱育、レクリエーション、コース等をとり入れて仲間づくり(コース別、全園)の基礎固めをおこなって十二月をおわった。一月からは、月(農業コース、通勤者コース)

ひとからげに扱われておる。しかし調査によつて青年の姿が具体的に把握される上意識が常識として軌道にのる。

そこで私は

- 1、青年から集まってもらい、青年の全国的動向や学区青年の実態を話し、後期青年学級は農業コース
- 2、各コースごとに改めて全員に呼びかけの文書を出し(この呼ぶの週三回の学習を進めていくが、

寄贈ありがとう

館報にしやま(たより)(長岡)広報おおしま(広報くびき)(頸城村)新(さまの)(寺泊)など(西山町)新生(大島村)など(名立町)桐岡民主(広報とちお)(栃尾(入込瀬村)公)県たよ(県文書広報課)市(笹神公民館たよ)妙高(ゆきわ)(湯沢)広報つづめ(津市)館報くろが(中郷たよ)わ(黒川村)公民館三重(原広報)広報つづめ(燕市)公(高柳町)公民館(小須戸町)むつみ(内公民館たよ)太田公民館たよ(出雲岡町)新郷社会福祉(水沢村)真(下越地区青年図書)郷(東京新潟県人会)新井(道義再建)野公民館たよ(関川公民館)柏崎青年(新潟)新潟社会福祉(いとい)報(富岡)たよ(稲吉公民館)川公民館(山本たよ)県(むつみ)(出雲岡町)新潟(津路村公民館)豊原(広報)区(山本たよ)王寺(みよも)日越公民館(保護観察)町のあゆみ(吉田町)野公民館たよ(新潟郵便局二)長岡(公)

ひかけが極めて大切である) 3、各コースごとに集会をもち、組織と学習計画について話し合る。 (出席の少ない時はその部署代表を通して呼びかけをおこなう)

4、確定者名簿をつくり、学習計画コース担当主事の決定の順で仕事をすめ、併行して体育、レクリエーション、コース等をとり入れて仲間づくり(コース別、全園)の基礎固めをおこなって十二月をおわった。一月からは、月(農業コース、通勤者コース)

これとても、講師面、学習場所の面、経費面等に問題は山積している。さて標題によれば、ここまででは序論であつて本論はこれからというところになるのだが、実はもう結論は出ているのだ。言いたいことは、この程度までが兼務青級主事のできることの限界であつて、これからの学習内容、学習活動等一切の仕事の責任を負うていくことには限らない苦痛を感じるのだ。もちろん主事が一人でも何かもやろうというのではないが、や

動らく青少年をこよなく愛し、勤労青少年教育の重要を思い、兼務青年学級はこのままであつてはならないと強く訴えたい。青年学級が社会教育の分野における唯一の公教育の場であり、後期中等教育の一環としての期待をかけられておられるほど。

(新潟市小合東青年学級主事・同小学校長・前県社教主事)

男 139人

高校在学	30	在 家				家事従事		26
		県外就職		県内就職		長男	三男	
		41	17	25	8	18		

女 137人

高校在学	9	在 家				家事従事		58
		県外就職		県内就職		下宿型	抱込型	
		30	18	22	40			

(36年8月現在)

独立館建設と職員研修が急務

全国大会に参加して 他県に学ぶ

安塚町小黒分館長 稲藤 敬 義

昭和三十六年十一月二十日から三日間、栃木県鬼怒川公民館に開催された本大会に出席する機会を得て、いろいろとお話を聞きました。全国各地の情勢を聞き、よい勉強をさせていたいただいと心から喜んでいきます。感じたことを書き添えておきます。

今後の社会教育

「一日も早く独立し、まづな建て方でいろいろの設備がた公民館が欲しい」と思うように求められ、自由に使いたいこと。自由で活かせるわかれわかれの公民館だということ。公民館は施設を中心にして動いているのではなく、公民館としての活動がなかなかならぬ。傾倒であり、住民の求めている姿である。特に見てきました。特に時代が変化する、農業構造の改善、農村の機械化、産業構造の急変、生活意識の変遷、若働力の配分等の問題が住民自身の問題となつて押しよせてきます。それに対してはよく相談相手となるべきです。

「社会教育の中心施設として公民館の活動を適切ならしめるため、直接その進捗にあたる公民館職員が創意工夫をもつて実践の成果を集め、その発表を中心とする研究集会を開くことを目的として本年も全公立公民館職員が募集された。

実践記録

本県代表

本年も徳間氏に
本県関係者は三名が応募し、毎日一田の公民館活動をめざす広報活動について昨年本県代表となった柏崎市が、また中央公民館の徳間助夫氏の「地区

のことです。わずか三人や四人では手がまわりかね、どうしても事務的な働きで精いっぱい、職員増員の声为全国共通な願いでした。館長を専任にし職員を増員して、住民の一人一人にそれそれよくよくな人材の配置が必要と思われま

「次を感じたことは公民館の職員研修の機会を与えて欲しいという願ひは、職員自身から大きく盛上つてきています。古いものへの理解、新しいものへの信頼、もつと勉強しない世の流転について感の現われであり願ひでもありません。それで研修の方法にはいろいろある。



(写真は栃尾市中央公民館正面)

たとえばA公民館職員とB公民館職員とがお互いに限つきで交換勤務をやってみたらどんなものでしょうか。どこかで計画してみませんか。(K)

社会教育県内留学生

二回目を迎えた栃尾公民館 一飯浜 主事談話から

社会教育実務講習とさわり、中央館職員と同様の勤でもいふのか、とにか務を続けながら各種の実務体験を習得して帰られた。第二回目は去る十一月下旬に十日町市教育委員会事務局社会教育課職員が同様な目的で来館ことを目的とした、いわゆる社会教育県内留学生が前後二回にわたり、わが栃尾市公民館に訪れた。その第一回は、昭和二十三年、刈羽郡刈羽村公民館職員が一月間長期出張の形で来市された、当時の中

サウチん

No.3 うつきかす



青少年教育振興協議会 課題分析の資料を完成

要約

農村部会および都市部会報告と重複する点もあるが、以上を要約するとおおよ次のようになる。

(1) 青少年の動きとその教育要求をとらえること
急激な社会の変貌に対応して、勤労青少年は地域内・職業的・階層的に大きく動いている。それにつれて彼らの心も大きく動き、かつその教育要求も複雑多岐に変化していくであろう。こうした動きつつある実態を全県的な規模で明らかにするとともに、さらに具体的な地域や職域に即してより深くとらえること、それがより具体的な青少年教育振興方策を樹立する基礎でなければならない。県においてはもちろん、市町村においても青少年の動きつつある実態を的確にとらえることが必要である。

(2) 青少年を中核とする総合社会教育を推進すること
青少年教育の振興は、成人教育や婦人教育およびその他の社会教育活動の進展と密接に結びついており、さらには学校教育や幼児教育とも無関係ではない。青少年教育の振興を中核として、幼児・児童生徒・青年および成人のすべてをふくむ総合社会教育計画の立案とその展開を大いに推進しなければならぬ。そのためには、総合社会教育指定地区なるものをさだめ、そこにおける実証的な調査研究・および計画立案・展開・評価の実践過程をとらえて総合社会教育のモデルケースを打ち出すことが有効であろう。

(3) 未組織青少年の組織化を適切に行なうこと
都市といわず農村といわず、いずれの教育機関や学習組織にも所属していない青少年が一人もいないようにしなければならない。そのためには、青少年の生活実態と教育要求に即して多面的な教育の機会を用意するとともに、やはり手はじめとしては彼らにとって魅力のある楽しい集いの場を提供し、そこから徐々に学習必要の自覚化をはかっていくことが最も適当である。こうした勤労青少年の集いを、県下各地においてできるだけ多く、かつ継続的にもつ必要がある。特に都市部における必要性は大きいと思われる。

(4) 青少年教育振興の世論を起すこと
未組織青年の組織化にしてからが、すでに青少年にだけ働きかけることだけでは不可能である。彼らの父母や雇用主、その他関係者の理解と協力および積極的な支持がえられなければならない。そのためには、低年齢青年層父母会議のようなものを一段と進展

させるとか、特に都市部においては雇用主の理解と協力をうるための機会をもつとか、さらには青少年教育問題についてのPRを一段と進めるとかの具体的な対策を樹立する必要がある。

(5) 教育的諸条件の整備充実をはかると

勤労青少年教育の専任指導者および専用施設の設置はいかにあっても、地域におけるさまざまな教育的資源の開発や学習資料の整備等といった物的・人的諸条件を整備拡充すること、それに必要な財政措置は、何をあいても速かにとらなければならない。特に社会教育主事、社会教育委員、専任青年学級主事等の設置促進、青年研修公民館や施設の急務の課題であろう。

(6) 青少年教育活動推進の総合的体制を整えること

県段階においてはもちろん、市町村段階においても青少年教育に関係する各機関・団体・組織等における連絡提携を階層し、実態調査の段階から、計画の立案・展開・評価といったまで、関係各部門が一貫性ある指導方針をもつて、相互に協力しあいながら青少年教育活動を推進していくという総合的な体制を確立することが必要である。

(7) 青少年に夢と希望をあたえること

勤労青少年の立場を尊重し、それに対する社会的評価を高め、青少年に夢と希望をあたえるように努力することはたえずなされなければならない。そのためには、たとえば青年学級に対しさまざまな社会的経済的特典をあたえるようにするとか、国内および県内の視察研修の機会をあたえたり、相互の交歓の場を設けるとか、いろいろな対策が考えられる。しかしその根本は、青少年が夢と希望をもてるような社会と経済、政治と教育を打ちたてることにあると思われる。これは勤労青少年教育関係者はいかにあっても、すべてのおとなの共同責任でなければならない。

社会教育の重要課題のひとつである青少年教育の振興問題は、塚田知事の誕生によって「青少年保護育成条例」の施行という方法で行政面からの具体策を示した。一方、県社教課では35年度頃から「青少年教育振興協議会」という総合的な振興組織をつくるため、農村・都市など各分野からの代表に委員、その現状と課題の分析を行なっていた。このほどその結果をまとめるため全体会議を開き、中間報告資料を作成し、市町村に配布した。以下はその要約である。



【写真は全国大会に乗りつけた
大和村公民館のダットサン】

公民館構子

○ダットサン五九年ライ
トバン。これは南魚沼郡
大和村公民館が本年度贈
入した移動公民館であ
る。七十二の小部屋の散
在している同村の社会教
育もこれでOK。図書は
はじめ教材教員の手運搬
に、講師助言者の送迎に大活躍。

運搬は同館の大久保主事。でこぼこ道路ややつとこおれる細い道でも、ガラスビンのかけらや、おちているがまじ、手拭などをまてはつきり目に入るというから腕前はまったくの玄人だ。もともと数年前まで、何万円かの(たしか上万円以下だったと思)ボンコンのような自家用車の所有者だったのだから、腕前はさもありなん。役場の職員や村議連も頭を下げて時に乗せてくれというからは、公民館も立場がよくなるというもの。先般電線が切れた、金公庫の大会はどの車でも貸すと会場にのりつたにすぎた。集った車に教育委員会と書かれたのがほとんど、公民館の名のついたものはまずまずでさがす旨の折れたとのこと。この意味でも全国的PRをされたことなるとも。購入に至るまでの関係者の努力と、これを補助金の対象とされた県当局に敬意を表す次第。(署名)

書店のPR雑誌(1)



県立図書館

落合辰一郎

書店といっても、小岩屋書店の「図書」である。書店をいうのではなく、発行元の書店という意味なのだ、近ごろそういう書店で出すPR用の雑誌が可成多い。万事が広報宣伝の時代だから、書店といえど、その例外ではあり得ない、というわけだ。

さてこれらのPR雑誌は、図書館にとつては、図書選択のために有益資料になるし、一方一般読者のためにも、仲々興味のある記事があつて、下手な総合雑誌や週刊誌などより、よっぽど気の利いたものが多い。第一価格も低廉であるし、場合によれば、無料でも送ることが出来るという魅力もある。そんなわけで、以下その主なものについて、紹介して見ようと思ふ。

先ず最初に採り上げたいのは、

書店をいうのではなく、発行元の書店という意味なのだ、近ごろそういう書店で出すPR用の雑誌が可成多い。

これは月刊で、B6版、本文三二、出版案内、五六の小冊子である。発行日は毎月一日で、定価は一部十円であるが、二年分たると

ある上司がこんなことを言つたのを覚えている。「役所の課が独立する条件に三つある。金と人事と世論だ」といふのです。もう少しくわしく言うと、補助金を出す仕事でか予算を流す仕事は課として独立できる。また人事権や監督権のある仕事も課として独立できる。金もないし、権力もないが世論の支持があるのだから、かえって公教育の否定を叫ばれて、お役所仕事で非難されるのが関の山だ。

社教漫言

持たせられれば課として独立できるというのです。金のある社教課なんて聞いた

社会教育はなにかしよ。金

送料共百円で済む。余盛であるがこれを題物として利用することも

百円を、送りたい人の所と宛名と共に同封して岩波に送ってあげば岩波からは、毎月その人の宛に届けられるという手法である。もっとも、小売店では無料とされているところもある。

さて内容は、良心的で既に定評のある岩波だけにさすがに本文三二は、毎号最高

金・人事・世論

「役所の課が独立する条件に三つある。金と人事と世論だ」といふのです。もう少しくわしく言うと、補助金を出す仕事でか予算を流す仕事は課として独立できる。また人事権や監督権のある仕事も課として独立できる。金もないし、権力もないが世論の支持があるのだから、かえって公教育の否定を叫ばれて、お役所仕事で非難されるのが関の山だ。

持たせられれば課として独立できるというのです。金のある社教課なんて聞いた

社会教育はなにかしよ。金

高の文化人や学者達が名を連ね、

の解説や、著者の紹介、近刊予告等、埋り、岩波の全出版物の動向者の評伝に、多彩な内容を盛り込んである。しかもそれが、少しも重ならない。

誤の存在は世論の支持がせめても一つの条件になってくる

もとも日本のお役所というものは、金と権力のために存在

もしたし、必要性もあつたのだ

と云ふが、戦後になって金も権

力もないお役所がいろいろで

川柳 山田凡束

嫁がせねばならぬ娘の年ハットする
適令となる旅先の娘を想ひ
娘も年頃他人の事てなし
クラスメートの縁談旅の娘に書けず
花札の雪の降る夜は子も交え
いつ覚えたか子に将棋いじまれる
今日も雪また散髪の日をのぼし

この一月号からは、輪転機で刷るようになったという。このわすか五十五頁位の小冊子が、輪転機にかけなければならぬというところは、その発行部数が、飛躍的に伸びていることの証左といえるだろう。

赤羽公 「色男、金力ばかりけり」
金と力とはなにも色男でさえあれば女も好むといふものだから

が、色男でもな、金も力もないのが近頃の社教教育のよう

いや、世論よりも「金と力」を夢みているのではないだろうか。

(T・S生)

創刊は、今年一月で二四九

号だから、遊覧すれば、昭和二十四年九月ということになる。

「色男、金力ばかりけり」
金と力とはなにも色男でさえあれば女も好むといふものだから

が、色男でもな、金も力もないのが近頃の社教教育のよう

いや、世論よりも「金と力」を夢みているのではないだろうか。

(T・S生)

存在もおかしくなる。東京都の

沖走る陽 庵原健

静けさ鉛色おもたたくたゆたへる冬どきの海に降り消ゆる雪
雪ちらり清はゆきて遙かなる沖走る日を記したりたまゆら
賑く海の底のそこを透すまでの明き冬陽が沖にさす見ゆ
海外の冬陽霞れゆる二二の教集りて啼くはかもめか
鳴しみる鳴けり冬陽の洩れひかる海の幾処に群れて啼きつ
冬枯れの木肌あかりの白く映る海を遥望り稀に風きたる
山下に取の居らむか照照れる磯山突端にいま竹つわれの
磯山の風靡木を冬枯れ肌あかるなり大寒附れて
海苔採集の人早く動きまわれの返りて磯に言いかはす
沖の船と磯の少女と啼くあへる岬底ぬけに寒附れとほる



あとがき

まず先月以来の遅刊をお詫びいたします。

事務局の引越し、年度末の諸整理、公民館職員長期講習と続きこの一、二月はおちついて編集のできる日が少ない日常でした。

来月号より本誌代が従来の一部八円より十円とします。このため購読部数増加運動に支障があらはしないかと懸念していましたが、その後続々と増加申し込みがあり現在三割近い成長を上げておる感謝いたしております。

- 長期職員講習に参加している读者連から次号に愛読感想文を寄って下さる事になっております。御期待下さい。
- 事務局の引越し以来、新事務局を訪問された方は次のとおりです。皆さんともに明るくすばらしい展望におどろいていかれました。
- 北川郡司氏(巻町公民館) 石井樹二氏(豊栄町助役 木会前副会長) 神田洞光氏(中条公民館) (ほか) 名、田田広四(寺泊公民館) 梅山八十二氏(直江津市公民館) 玉井滝氏(龜田公民館) (石川秀雄氏(見附市社教主事) 水橋忠司氏(長岡市公民館) 伊藤茂治(関川村公民館) 小柳耕司氏(五泉市橋田小学校長・前県社教主事) 佐野勇氏(佐佐佐和町公民館) 一米高順